

教育実践フィールド研究



第3講

「教育実践フィールド研究」のねらい

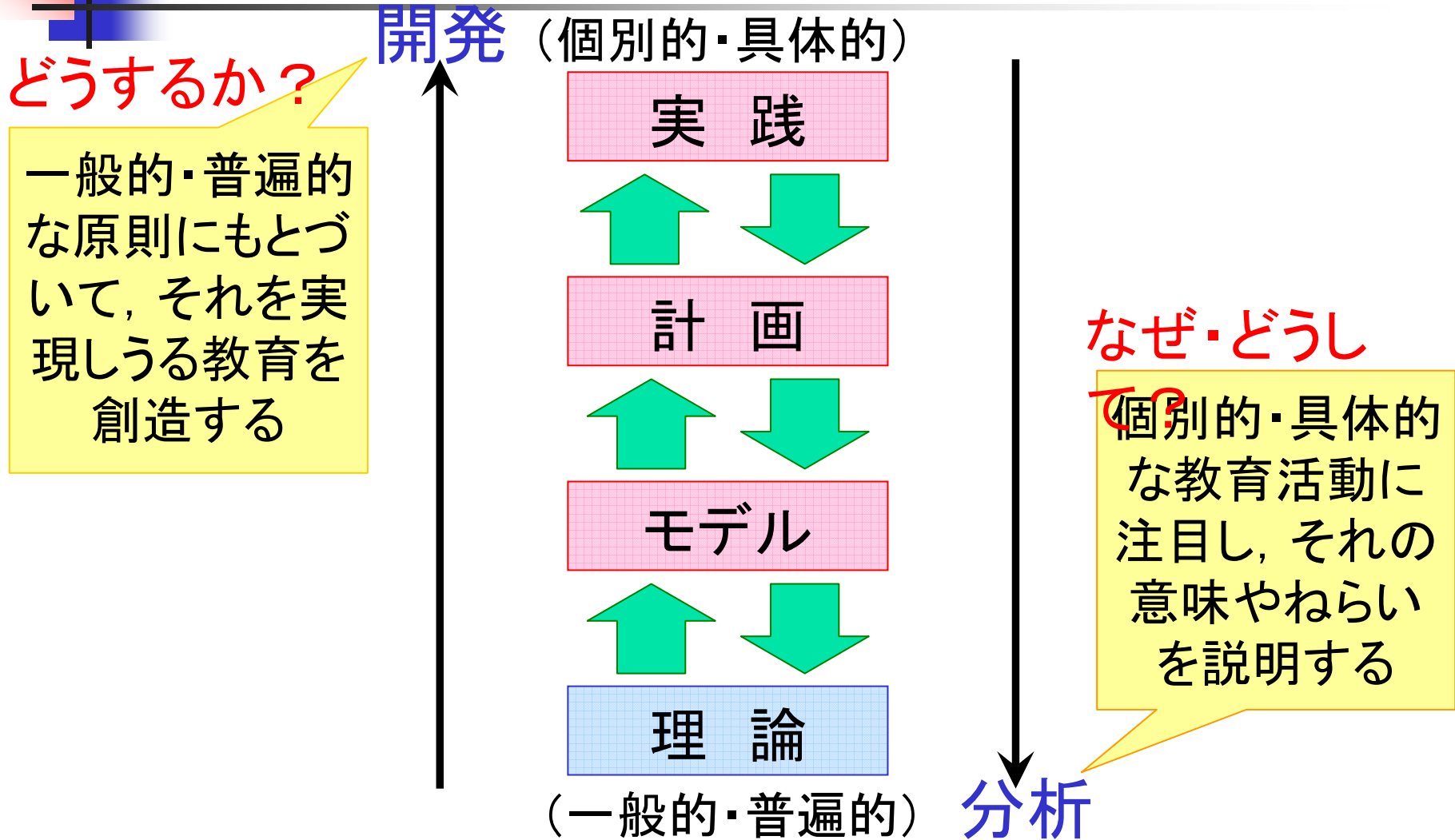
—どのような専門性を身につけるのか—



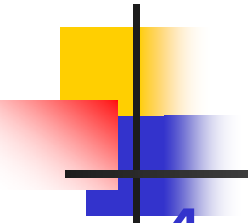

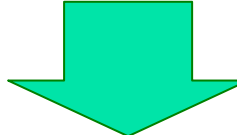
第3講前半の課題

1. 専門家は、指導案を見るだけで、実際の授業のようすを予測できるのはどうしてだろう？
2. あなたにとって、実践に「役立つ」成果って、どんなものを指しますか？
3. 梅津グループの「比較授業研究」、山森グループの「価値観の対立とその昇華」。このような方法論が、どうして求められるのだろう？
4. 草原グループの「教材の開発(科学的社会認識)」と、長島グループの「授業の工夫(コミュニケーション)」。研究のキーワードが違うのは、どうしてだろう？
5. 「教育実践フィールド研究」の目指すものとは？

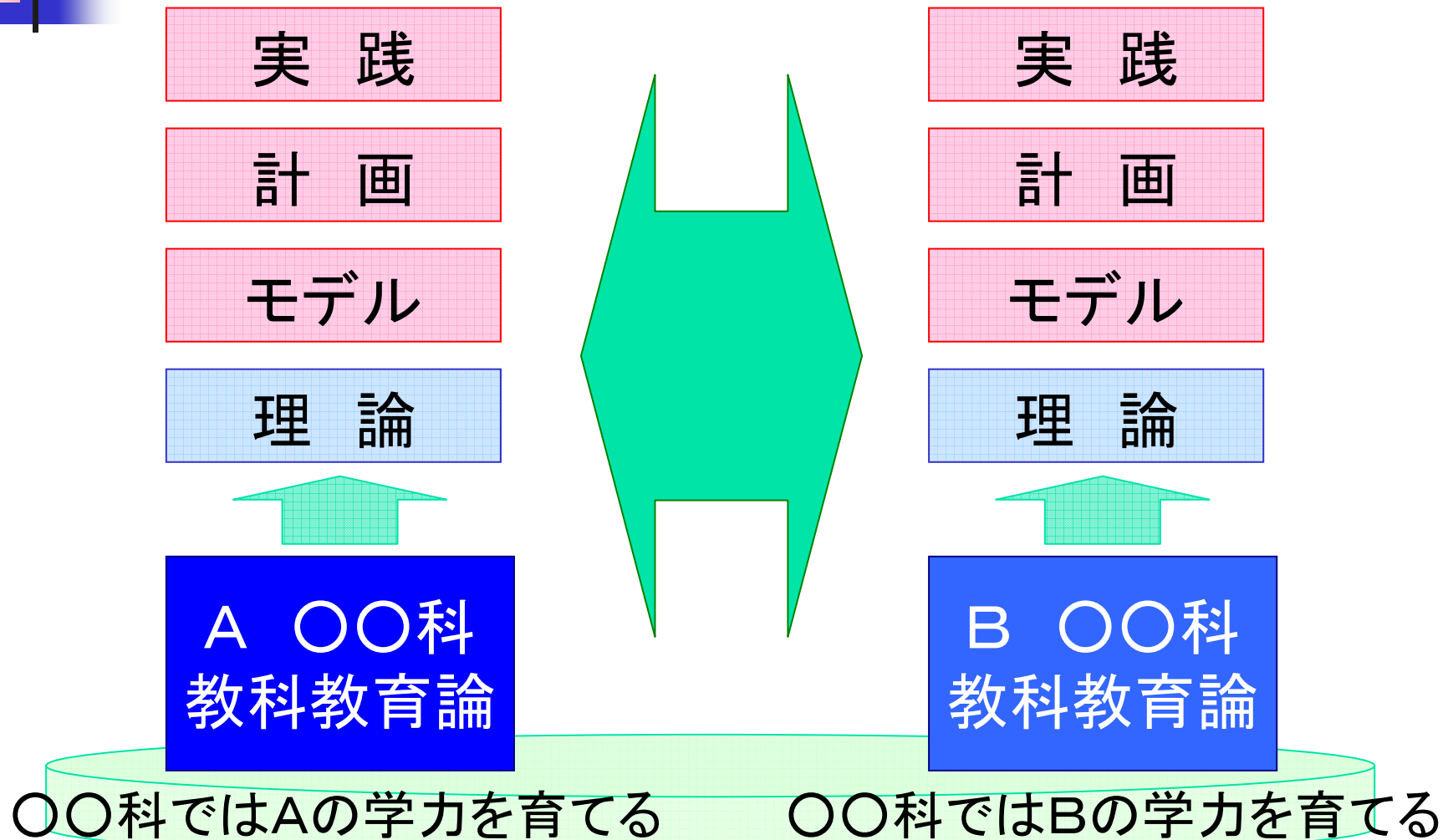
I 教科教育の成果(研究対象)の重層性



※ 研究の目的に応じて、1→2/3/4の
往復の幅の変わってくる

- 
4. **実践**：計画にのっとりつつも、臨機応変に、**生身の児童生徒との関わり**の中で展開されていく実践そのもの
 3. **計画**：**特定**の子ども・学級を想定し、モデルを**実行可能な指導過程**に修正したプラン
 2. **モデル**：**一般的な**子ども・学級を想定し、理論を**具体的な指導過程**にあらわした実践の理念型
 1. **理論**：実践・計画・モデルを成り立たせている教科指導の原則（目的・内容・方法の体系）
- 
- 

II 教科教育の理論の相対性・競合性



※ 学校種や学年段階の相違で、
目標のウェイトが変わってくる

1. 教科教育としての 人間形成(実質)

人間形成において、

- ・ 言葉で意思疎通できる
- ・ 生活や社会を分かる
- ・ 数や形を分かる
- ・ 自然を分かる
- ・ 芸術を味わえる
- ・ 身体を鍛え、運動できる

ことには、どんな**必然性**があるだろう

○○科だからできること

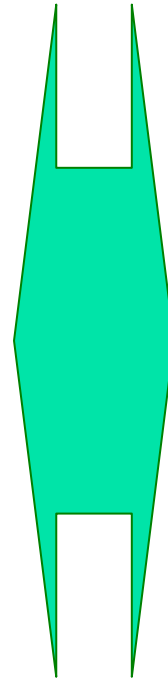
2. 人間形成のための 教科教育(形式)

人間形成で欠かせない

- ・ ねばり強い子ども
- ・ 他者を尊重できる子ども
- ・ 自己を表現できる子ども
- ・ 公共心に富んだ子ども
- ・ 個性の輝く子ども

を育てる上で、教科にはどんな**可能性**があるだろう

○○科でもできること



Ⅲ 教科教育の研究法の多次元性

実践

計画

モデル

理論

〇〇科
教科教育論

〇〇科
教科教育法

〇〇科
教科教育術

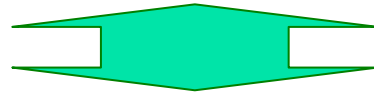
教科固有的 ←

→ 通教科的

※ 教科の特性や歴史に応じて、
主たる論点・争点も変わってくる

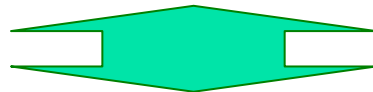
1. 教科教育論...目的合理的な授業とは？

教科の存在理由，教科の目標にもとづいて，目標達成に
むけた学習指導の内容・方法を明らかにする



2. 教科教育法...状況整合的な授業とは？

法・政策・学校の方針，地域・保護者のニーズ，子どもの
実態，最新の学問・芸術の動向を踏まえて，学習指導の
内容・方法を明らかにする



3. 教科教育術...共同遂行的な授業とは？

学習者相互の関係づくり，学習者と教師のコミュニケー
ションの取り方，板書や子どもの動かし方，生活指導を含
めた 効果的な学習指導の内容・方法を明らかにする

IV 教育実践フィールド研究のねらい

授業力の育成とは、

(知識) 他者・他教科との交流・葛藤を通じて、

- 1 教科教育の成果(研究対象)の重層性を知る
- 2 教科教育の理論の相対性・競合性を知る
- 3 教科教育の研究法の多次元性を知る



(能力) 同僚との協働, 学校との往還を通じて

モデル・計画・実践の各レベルにおいて, 理想的な指導ができるようになる